

2007年度 早稲田大学・商学部 9月入学試験 【講 評】

全体の問題形式、設問数などはまったく変更はなかった。商学部の2月入試とは完全に異なるタイプの問題形式が定着したと言っていいだろう。全体の難易度は、Iがかなり易化したことが最大のポイント。II、IIIはやや易化、IVは昨年並みの難易度だ。I～IIIも重要なのは当然だが、受験した生徒に聞くと、やはりIVの自由英作文を書く時間が足りないとのこと。ここをどう乗り切るのがポイントであろう。

I. 読解問題。設問は、相変わらず「内容一致問題」「空所補充問題」が中心。ただ、本文にある語(句)の文脈中での意味を問う問題が若干出題された。単に語(句)の辞書的な意味を聞いているのではなく、文脈中での意味を問う問題だ。英文の総語彙数は昨年並みだが、難易度はかなり低下した。もっとも、このレベルが商学部の2月入試とほぼ同等と思われるので、9月入試のみ突出して難しかった今までは一線を画した感がある。テーマは社会科学系が中心となった。5つの大問中4つがそうだ。商学部らしいと言えはいいのだろうか。2月入試の商学部のテーマはあまり社会科学系とは限らないので、それとの差別化をしたのかもしれない。

II. 空所補充形式の文法問題。昨年と同様15題。前置詞問題が減って、熟語を問う問題が多くなった。昨年のように受験生には解答不能のような前置詞問題がなくなったので、全体的にはやや易化と言えるだろう。2005年が動詞の語法、2006年が前置詞、そして2007年が熟語と、圧倒的に狙われている分野が毎年違っている。来年はこれ以外を考慮すべきであろう。

III. 正誤問題。昨年と同様10題で、昨年よりやや易化したようだ。2005、2006年度は前置詞がよく狙われていたが、今年は前置詞が正解なのは2問だけである。ただ、早稲田の他学部の2月入試を考えても、やはり今後も前置詞は少なからず出題されると思ったほうがよいだろう。今回は、代名詞、動詞の語法、形容詞、数の一致、比較、準動詞などが狙われた。適当にちりばめられていると言えよう。

IV. 自由英作文。今年度は、「国連のトップになったら何を一番やり遂げたいか? また、どのように実行するか?」が題目であった。昨年は「21世紀の人間社会に直面する最大の問題」が題目。一昨年は、「貧困の原因が人間にあるのか、また人間の行為によって克服できるのか?」を問う問題。また、帰国子女向けの問題では、「新聞・雑誌の情報とインターネットの情報でどちらがいいか?」「テロの行為に対処するために個人の自由は犠牲にされるべきか?」が題目として出題されている。早稲田大学 法学部、国際教養学部を含めて、すべて社会問題がテーマであることには変更がなかった。今年度は reasons と理由を複数書かせるものではなかったが、やはり常日頃社会問題に関心を持っていないと、内容的に書けないと思われる。新聞やテレビのニュースなどの報道を手がかりに、常に自分なりの考えを持つことが重要であろう。